

ロシアのウクライナ侵攻4年

戦争になつたら 原発は標的になる

2022年3月ロシア軍の攻撃を受けたウクライナ・ハリキウの核施設



2026年2月24日(火) 18:30～ 開場
18:00

2022年2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻から4年。ロシアは国際法上許されない侵略戦争を行い、開戦当初から欧州最大の原子力発電所であるザボリージャ原発（6基・計600万kW）を占領しました。さらに、チヨルノービリ（切尔諾ブイリ）原発をはじめ、複数の核施設が攻撃の対象となっていました。

加えて、2025年6月13日にはイスラエルが、6月22日にはアメリカが、イランの核施設を標的に軍事攻撃を行いました。これらの出来事は、原発や核施設が戦争や武力衝突の中で、現実に攻撃対象となり得ることを示しています。

もし原発や核施設が攻撃によって壊滅的な被害を受ければ、放射性物質が国境を越えて拡散し、周辺住民だけでなく、人類全体に計り知れない惨禍をもたらします。原発は「安全保障」に資する存在ではなく、ひとたび戦争が起きれば、極めて危険な標的となります。

この集会では、「戦争×原発」という視点で、脱原発がなぜ必要なのかを考えます。



テーマ：核施設への攻撃リスク
一対応は本当にできるのか

お話：鈴木達治郎さん

(NPO法人ピースデポ代表、長崎大学客員教授)

会場：連合会館204会議室

(千代田区神田駿河台3-2-11)

資料代：1000円

主催：さようなら原発1000万人アクション ☎03-5289-8224